

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町瀬戸口24
電話 2-9772

平成31年度 教職員人事異動について

人事異動は、学校の教育活動を清新活発にし、県教育の進展に資することを目的に、厳正かつ公正に行われるものです。それは、教職員の今後の生き方や在り方に大きく影響する大切な節目でもあり、校種や規模・地域性等の異なる学校での勤務経験は、教職員としての資質・能力を向上させることのみならず、自覚やモチベーションを高めることに密接に関連します。

そのため、一人一人が中・長期的な見通しをもち、教職員としての一層の成長を促すための適切な赴任計画の検討をお願いします。

なお、健康状態や家族の状況等特別な事情については可能な限りの配慮をしていきたいと考えています。あくまでも「妥当性」と「公平性」を基本として考慮していく必要があります。加えて、本県及び管内教育の現状や各学校の組織状況等あらゆる実情を踏まえた上で「総合的に調整していく」必要があり、「妥当性

のない自己都合等の事項については、優先されることはありませんので、ご承知おきください。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

以下は、島根県教育委員会及び隠岐教育事務所の人事異動方針です。ご確認ください。

(文責 渡部)

島根県公立学校 教職員人事異動方針

平成三十二年島根県公立学校教職員人事異動は、学校の教育活動を二層清新活発にし、本県教育の進展に資するため、関係機関との緊密な連携の下に、次の各号により厳正に行う。

- 1 全県の視野に立ち、適材を適所に配置するとともに、学校の教員組織が適正なものとなるよう配慮する。
- 2 へき地教育については、その振興を図るため、優先的に人材を配置する。
- 3 特別支援教育については、その振興を図るため、適任者を配置する。

4 管理職教育職員の登用にあつては、勤務実績を十分考慮する。その際、勤務評価を参考資料として活用する。

5 新規採用は、資質良好で、かつ事務実績を十分考慮する。

6 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の連携により一貫した教育を推進し、教員の資質の向上を図る各職種間の人事交流については、指導力・担当教科等を考慮して適正に行う。

7 同一学校及び同一地域における永年勤続者については交流を図る。

8 新規採用は、資質良好で、かつ教育者としての識見と熱意を有する者について、将来の教員組織の適正化を考慮して計画的に行う。

9 上記の方針に基づき、「平成三十二年島根県公立学校教職員人事異動方針細則」及び「平成三十一年度島根県市町村立学校教職員人事異動方針細則」を定め、運用する。

以上

島根県市町村立学校 事務職員人事異動方針

平成三十二年島根県市町村立学校事務職員の人事異動は、学校の教育活動を二層清新活発にし、本県教育の進展に資するために、関係機関との緊密な連携の下に、次の各号により厳正に行う。

- 1 全県の視野に立ち、適材を適所に配置する。
 - 2 同一学校及び同一地域における永年勤続者については交流を図る。
 - 3 新規採用は、資質良好で、かつ事務職員としての識見と熱意を有する者から行う。
 - 4 上記の方針に基づき、平成三十二年島根県市町村立学校事務職員人事異動方針細則」を定め、運用する。
- 以上

隠岐教育事務所 人事異動方針

平成三十二年隠岐教育事務所管内の人事異動は、島根県教育委員会との定める人事異動方針に基づき、各小・中学校の教育活動をより活発にし、管内教育を一層充実させるため、関係諸機関との連携のもとに、以下の方針により厳正に行う。

I 教職員

- 1 広域的な視野に立ち、学校の教員組織が適正なものとなるよう配慮する。
- 2 学校の課題解決と充実した教育活動推進のため、適任者を配置する。
- 3 特別支援教育の推進を図るため、適任者を配置する。
- 4 中学校での免許外担当教科をなくすよう、教員の配置に配慮する。

平成二十九・三十二年 文部科学省人権教育 島根県人権・同和教育 研究指定校発表会 を終えて

十一月二日（金）、海士小学校が「自己を大切に」して学び合い、意欲的に行動する子どもの育成」を研究主題に研究発表会を行いました。

当日は、一年生と五・六年生複式学級の道徳科の授業が公開され、研究仮説に基づき二つの視点①「一人一人の自己肯定感を高めるための授業作り」と②「お互いを大切にしよう」を設定し授業が行われ、各学年で育てたい力と時期を設定し、目標達成に向けて、道徳科の授業が各教科や行事等と関連をもつ流れになるように組み立てていくことが示されている「カリキュラムマネジメントの充実」に通じるものであり、この年間カリキュラムを保護者や地域へ公開していくことは、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けても有効に働くものだと考えます。

管内の学校におかれましては、海士小学校の取組をそれぞれの学校で是非活かしていただきますようお願いいたします。

(文責 吉山)

5 上記の方針に基づき、人事交流（内規に基づく島前島後間交流、小中県立学校間の交流）を適正に行うとともに初任者の配置に配慮する。

II 事務職員

- 1 学校の実情と事務職員の育成を考慮し、適切な配置に配慮する。
- 2 事務グループ活動の充実のため、見通しをもった配置にする。

以上

時間を待つ工夫がなされてきました。また、お互いを大切にしようとするために、二年生では「聞くこと」を大事にした学級経営に努め、児童のつぶやきや自由に発言することを受け止める取組が、五・六年生では、終末で「クラスを支えている友達アンケート」を紹介する取組がなされました。クラスのために頑張っている友達を紹介した時、紹介された児童が見せた笑顔は、まさに自己肯定感が高まった瞬間であったと思います。

また、海士小学校では、人権・同和教育の年間カリキュラムを作成し、各学年で育てたい力と時期を設定し、目標達成に向けて、道徳科の授業が各教科や行事等と関連をもつ流れになるように組み立てていくことが示されている「カリキュラムマネジメントの充実」に通じるものであり、この年間カリキュラムを保護者や地域へ公開していくことは、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けても有効に働くものだと考えます。

管内の学校におかれましては、海士小学校の取組をそれぞれの学校で是非活かしていただきますようお願いいたします。

(文責 吉山)